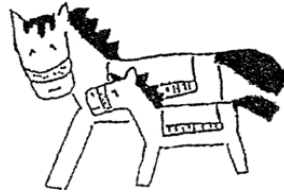


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

27年 8月 NO. 249



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		8月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
8月 15日	土	体験保育 10:00～12:00	お子さまと同じ年齢のクラスに入っていっしょにあそびましょう。
8月 21日	金	おはなしの会 10:00～11:30	「ふしぎな世界へようこそ」をテーマに折り紙マジックや大型絵本など楽しいことがいっぱいです。
8月 22日	土	地蔵盆においで 17:00～20:00	縁日や盆踊り、人間劇、花火など盛りだくさんです。どなたでもどうぞ。
8月 26日	水	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師（小児科）にゆっくり相談できます。（予約要）
8月 26日	水	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	金魚の折り紙やモビールを作ります。子育てや孫育てのフリートークもあります。
8月 29日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験においで下さい。
8月 29日	土	おとなアート 14:00～16:00	ひもとガーゼを素材に現れた形をきっかけに色彩へと表現を発展させていきます。（予約要）

・火～金の13時～16時までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談（月～土）9:00～18:00

しつけや子育てについての悩み、保育園生活入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みすゞ童話全集①
美しい町・上

私もついてゆきたいな。

嬢ちゃんのおつむにかぶられる・・・

やがてかわいいおかつぱの、

赤い都のかざりまで、

紺青いろに染められて、

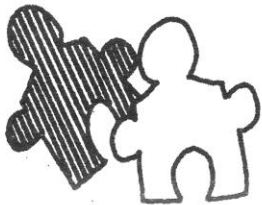
私の編んでる麦藁は、
どんなお帽子になるかしら。

むぎわらあ
麦藁編む子の唄



今月は前月に続いて、井桁容子さん（東京家政大学ナースリールーム主任保育士）の“心を育てる保育の力”についてご紹介します。

私たちは、保育の現場でこどもたちの色々な自己表現に、日々向き合っています。そんな時、こどもの内なる声を理解し、こどもの主張や行動、ことばなどにふり回されるのではなく、心の育ちを感じ、それをしっかりうけとめていく、そんな保育ができるよう心がけていきたいものです。



“泣く”という感情表現

東京家政大学ナースリールーム
主任保育士 井桁 容子

人の感情は、3歳までに育つといわれています。保育の中で、子どもの心が育つとき、あるいは子どもの心が育ったと感じた瞬間とは、どのような時でしょうか？

乳児期からの集団保育の需要が増えつつある今、目には見えにくい心の育ちを保障する大きな役割が保育の場に、私たち保育者に求められています。

頑張れ！自己主張

お気に入りの傘をさして登園してきた由紀ちゃん（3歳）が、玄関から保育室にまで濡れた傘をそのまま持ち込もうとしていました。お母さんは、止めていますが聞く耳持たずの強引さで、傘を持ったまま保育室の扉の前まで来て「あけて！」とっています。

「濡れた傘を持っては、お部屋には入れないよ。それに危ないしね」と私が理由を話して止めましたが、由紀ちゃんは「あけて！」と、さっきよりさらに強い口調で怒鳴るようにいいます。

「開けられないです」「あけて！」「何度いわれても、危ないので絶対にあけられませんねえ」と私が緩やかに拒むと、「あけて～」と涙声になりました。「傘は濡れているし、硬くて尖ったところもあるから危ないので、お部屋の中では困るの。だから、何度いわれてもこの扉は開けられないのよ。でも、先生は、由紀ちゃんの傘はとってもきれいで素敵な傘だと思うよ」というと、傘を傘立てにそっと置きにいきました。

おお、思ったよりもスムーズに受け入れてくれた・・・と思いながら由紀ちゃんを見ると、濡れたレインコートは着たままです。きっと彼女なりの意地もあるのかと、「レインコートは素敵だから、みんなに見てもらおうのもいいね」とつぶやくと、保育室に入っていきましたが、すぐに玄関へ脱ぎに戻ってきました。やはり、自分が何をしたのかはわかっているのだなと感心していました。



◎ おもしろい自尊心の守り方

しかし、そんなに美しく一筋縄で終わらないのがこれまでの由紀ちゃんです。笑顔の私を見て、「やだっ！あかんべ〜！！ばか！！」と、きました。「やっぱり、そうきたか！」と笑いをこらえていましたが、お母さんは慌てふためいています。

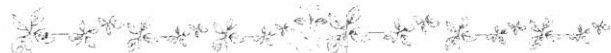
余裕のあるふりをしながら私はいいました。「今度、由紀ちゃんがあっかんべ〜っていったら、先生は、そのあっかんべ〜を拾って、お弁当箱に入れて、マヨネーズかお醤油かけて食べてみようかなあ〜。どんな味かなあ?!」すると、「食べちゃダメ〜!」「だって、由紀ちゃんがいつもいって、おいしそうなんだもの」「食べちゃだめ!すっぱいよ!!」。

なるほど、あっかんべ〜は、すっぱいのか・・・とその味つけの上手さに感心していると、このあたりの会話まできたら、お母さんにもゆとりが出てきたのか、「由紀、すっぱい顔してみせて?」と切り替えると、リクエストに応じて、何とも愉快的な表情をしてみせてくれた由紀ちゃんに、お母さんと爆笑しました。

その笑いで一件落ち着いたかのようにみえました。しかし、由紀ちゃんが保育室に入って行った途端に、「だめ!由紀ちゃんの!!」と、一人遊びをしていた1歳児の女の子が何もしていないのに、突き飛ばそうとしました。そばにいた保育者が止めに入り、その場は収まりましたが、お母さんの気持ちは収まりません。

「あれは祥子ちゃんに失礼だったと思うよ。祥子ちゃんがびっくりして悲しそうだった!どうすればよかったの?!」と、怒った口調で諭していました。すると、無然とした表情でお母さんの言葉を聞いていた由紀ちゃんが「わかった・・・」と押し殺したようにいった後、自分の鼻の孔に人差し指を当てて、鼻声にしていきました。「ごめんねうんち!」

もう、おかあさんと顔を見合わせて大爆笑です。こんな自尊心の守り方があるのですね。とっさに悔し紛れに出た言葉のようですが、その時の由紀ちゃんの気持ちが本当に伝わってくる謝り方でした。



◎ 自分の気質と向かい合う

由紀ちゃんには、2歳上の兄がいて、いつも乱暴な言葉も聞いていて、あっかんべ〜も間違はなく兄からの受け売りです。そして、由紀ちゃんの生まれもった負けず嫌いの気質もあるので、自分のしていることがよくないことと知っていても、押し通したい気持ち、引っ込みのつかない思いもあって、自分自身の中で時々手を焼いていることが、これまでもよく見られました。

ある時は、自分の思い通りにならないことがあるたびに、怒鳴るように泣き続けるので、「あのね、由紀ちゃん。人はいろいろな声が出せるのよ。由紀ちゃんの泣く声は、あんまりきれいな声じゃないねえ。ちょっとこれを聞いてみない?」と、サラ・ブライトマンが歌う「アヴェ・マリア」のCDを聞かせました。すると、美しいソプラノの声に真剣な表情で聞き入って、終わってしまうと「もっかいかけて(もう1回かけて)」とリクエストし、3回ほど続けて聞いて「これ、なあに?」「サラ・ブライトマンという人の声、きれいでしょ?」素

敵な声でしょ？」と確認すると、黙って頷いていました。

由紀ちゃんは、あかちゃんの頃から歌が大好きで、泣いている時に歌うと泣きやむことがよくありました。また、音感もよさそうなので、この提案は効き目があると確信がありましたが、やはり興味をもってくれました。

その翌日、またまた保育室から「ぎゃ～！！」という鳴き声が響き渡ってきたので、怒鳴るように泣く由紀ちゃんの耳元までいって「サラ・ブライトマン」とささやいてみたら、泣くのを止めて「はあ～って？」と裏声のような高い声を出してみせて、怒鳴り声は止めました。

●表現することで調整を学ぶ保育

大人でも子どもでも、わかっちゃいるけど止められない、ということが一つや二つあるものです。納まりきれない自分の中に起こる感情、そのことと折り合いをつけていくことが人生の課題だったりもします。感情が波立たないことがいい育ちではないのです。

この世に誕生したその時から、生活のさまざまな場面で、そのような自分自身をさらけ出しながら、経験を通して自分の中に湧き起こる感情を調整する力が育っていくことも乳幼児期に必要なことです。きょうだいも少なくなり、地域での人とのかかわりの希薄さ、さらに親自身が自分の感情表現が下手な世代といわれていますので、家庭の中においてさまざまな感情体験が保障できることではなくなってきました。

保育者が、子どもたち一人ひとりの異なる感情の揺れ幅を、一人ひとりが奏でるメロディーのような個性と捉えて、その表現をおもしろがりながら、時にユーモアを交えて保障していき、自分との向き合い方を一緒に考えながら探っていくことが、保育で保障できる育ちとして大切な部分だと思います。

時々、0歳児の保育を見学することがありますが、乳児が保育者に抱っこされている様子を多く目にするがあります。もしも、その抱っこが“泣いてしまうから”、“泣かさないように”が目的の抱っこだとしたら危険です。泣かさない保育は、表現をしてはいけないことを求める保育になってしまうからです。泣き止ませることを先に考えるのではなく、泣く理由を考えてほしい、と乳児は望んでいることでしょう。

例えば、「眠い」泣きならば、静かな場所でおおとしておいてあげることで、自らクールダウンしていければ理想的です。寝そびれて不快感として激しい泣きに移行したら、子守唄で手伝う、それでもうまく切り替わらなければ抱っこで、周辺の情報を減らしてあげて、興奮してしまった交感神経からリラックスの副交感神経に移行する手伝いをするということで、抱っこが生きてきます。

“乳児が泣いたら抱っこ”という処方箋は、子守りといわれてしまいます。表現したことに適切な対応をしてもらうことが『乳幼児の意見表明権』として保障されるべき権利なのです。

